

保険でよい歯科診療を  
大阪連絡会

# 「噛むことは生きる力」

## 総会・市民講座に120人が参加

歯科医療関係者や患者らでつくる「保険でよい歯科診療を大阪連絡会」は、第3回総会と市民講座「口は命の入口、心の出口」を5月20日、M&Dホールで開いた。講師を務めた西日本新聞編集委員の佐藤弘氏は、「食」をテーマにした豊富な取材経験を基に、生きることに「噛むこと」のつながりを軽妙に語った。参加した120人は、ユーモアを交えながらの講演に熱心に耳を傾けていた。

(3面に関連記事)



120人が参加した市民講座＝5月20日、M&Dホール

佐藤氏は、西日本新聞で「食・農・くらし」を担当し、食生活を考える長期連載「食卓の向こう側」を企画。読者から大きな反響を呼んでいる。子どもの平均体温が低下していることを指摘した佐藤氏は、低体温で体内酵素の働きが弱まり、臓器・免疫機能の低下を引き起こすことを説明。一因として、ハウス栽培による季節外れの野菜や果物の摂取など食生活の変化を挙げた。

大学生の食生活の写真を紹介し、参加者と共に問題点を検討。朝食抜きや菓子だけの食事などの実態について「TPPが農業を破壊する前に私たち子どもが壊れていく」と述べ、「食」と「命」のつながりを見つめ直そうと訴えた。

食生活を改善するため、教育の重要性を強調した上で、「今の食育は食べるのが中心になってしまっている」と指摘。「作る↓食べる↓出す↓処理する↓土に返す」といった循環の中で考えるよう提起。取材を続けるなかで「噛むこと」の重

要性に気づかされた」と述べ、入れ歯をつくって長生きしたロボの話を紹介した。近年の咀嚼回数減少傾向を示しながら、「噛むことは生きる力に直結している。病気を治そうと思ったら、入り口を治さないといけない。医・食・農を一体で考え、もっとアピールしていこう」と呼びかけた。

総会で代表世話人の小澤力理事長は、12年度の活動方針として、「保険でよい歯科医療」の実現を求める意見書採択の取

り組みや大阪府との懇談など、五つの柱を提案し、了承された。総会メッセージ一覧

○国会議員

【衆院】 民主・辻恵、松岡広隆、長尾敬、自民・竹本直一、共産・宮本岳志

【参院】 民主・梅村聡

○団体

「保険で良い歯科医療を」全国連絡会

(3) 2012年6月5日

(第二種郵便物認可) (5、15、25日発行)

大阪歯科保険医新聞

## 子連れの母親らに好評



ブラッシング指導を受ける親子＝5月20日、保険医会館

## 歯みがき教室開催

「保険でよい歯科医療を大阪連絡会」の第3回総会・市民講座の前に開かれた「正しい歯のみがき方」教室では、歯科衛生士8人が出務し、市民39人にむし歯や歯周病予防のための歯のみがき方を指導した。1歳の子どもを連れた母親は「子どもも歯が生えてきて、どう手入れすれば良いか悩んでいた。じっくり教えてもらえて助かった」と喜んでいました。